

美濃加茂市未来のまちづくり委員会（第7回）議事録

1. 日時：令和元年5月24日（金） 午後7時00分～9時00分

2. 場所：美濃加茂市生涯学習センター 203号室

3. 出席者（順不同）：

（1）委員：

海道会長、生田委員、須藤委員、原田委員、山田委員、鈴木委員
宮口委員、長谷川委員（9名中8名出席）

（2）業務委託先：

玉野総合コンサルタント株式会社 4名

（3）市：

経営企画部長、企画課長、その他企画課 2名
建設水道部対策監

4. 報告事項

事務局から、資料に基づき報告がされた。報告内容は、前回委員会の議事録、今後の委員会スケジュールについてである。

5. 審議事項

資料3-1（美濃加茂市新庁舎整備基本計画（案））について審議を行った。委員から出された主な意見は以下のとおり。

（1）資料3-1 機能について（第7回委員会審議分）

事務局から、資料に基づき新庁舎整備基本計画（案）における機能について説明があった。委員から出された主な意見は以下のとおり。

【防災機能】（P. 11～）

- ・「情報通信・発信機器の強化」とは、どのような機器を想定しているか。
→（事務局回答）防災無線に加えて個別で対応（発信）できる設備や、無線のデジタル化などを想定しており、今後検討を重ねたい。
- ・「十分な備蓄スペースの整備」とは、防災備蓄スペースを1箇所にとまとめるという意味か。
→（事務局回答）現在の防災備蓄倉庫に代わるものではない。近隣住民と初期対応を行う職員の備蓄を意図している。表記の仕方を検討したい。
- ・BCP（業務継続計画）は既にある計画か。今後どの程度検討するのか。
→（事務局回答）既に計画済みで、課ごとに優先順位を取りまとめている。
- ・大地震は、どの程度の規模を想定しているか。
→（事務局回答）震度6強程度を想定しており、政府の定めた安全基準の最高レベルでの対応を目標としている。

【議会運営】（P.12～）

- ・「傍聴席の十分な席」は、どの程度の規模を想定しているのか。他市では十分な席があるが、傍聴する市民は少ないことも見受けられる。
- ・コンベンション等で多目的に利用できるようであるが、現在の市民のニーズはあるのか。
- ・インターネット配信なども有効であると思われる。
 - （事務局回答）傍聴したい人が傍聴できるシステム、機能を備えたい。現在は議場の活用を希望する特定ニーズは把握していないが、バリアフリーでフラットな議場、多用途に市民が活用できる開かれた議場を目指したい。
- ・「多目的に利用できる」議場にするために、模擬議会を行うなど、教育を目的に高校生なども含む若い世代に活用を促してみることもよいと思われる。

【環境機能】（P.13～）

- ・ZEBの理念に基づきとあるが曖昧な表記で、記載しなくてもよいのではないのか。
 - （事務局回答）エネルギー効率のよい建物を目指すことは重要と考えており、理念に基づくという表現をしている。
- ・現在、BEMS等のシステムを管理する部署はあるのか。
 - （事務局回答）現状では専門の職員は配置されていないが、システムを整備したうえでその活用をはかる人材の育成や配置も検討していかなくてはいけない。

(2) 資料3-2 配置について

- ・既存の施設を活用するという趣旨の配置計画については理解できるが、新庁舎の建設地は、事業手法等の検討を行っていく上で必要な情報ではないのか。
 - （事務局回答）現段階で具体的な場所は設定していない。しかし、想定できる建設地の中に、市商業ビルが挙げられる。市としては、市商業ビルは、今後30年間を維持運営する場合、約30億円の大規模修繕が必要であることから、当面の安全性を確保できるレベルの修繕を行い継続させていく方針である。新庁舎の建設によって、駅周辺の都市機能としてまちづくりの発展に繋げるためにも、様々な場合を想定して課題を整理して検討を進める。
- ・新庁舎の望ましい配置は分散配置とあるが分庁舎は新しく建設するのか。
 - （事務局回答）当面は、現在の分庁舎も含む既存のストックを活用していくことを考えている。
- ・分散型配置の役割の一つとして、賑わいの創出とあるが、配置される課は賑わいの創出に貢献できるのか。
 - （会長）次回に新庁舎と分庁舎の配置イメージを提案して欲しい。
- ・分庁舎や他の公共施設と新庁舎の相互の関係から創出されるにぎわいを具体的にイメージできるとよい。
- ・新庁舎の面積をコンパクトにするために分散型としているが、分散型の配置にしたことで、まちづくりにどのような効果がみられるのか示されるとよい。
- ・平面構成イメージにおいて、駐車場をはじめとする配置の意図がわかりづらい。

- ・資料3-1の機能を踏まえ、資料3-2と整合性がとれるとよい。
- ・新庁舎自体ではなく、まちづくりの視点から説得力を持って新庁舎整備の利点をアピールできるとよい。
- ・新庁舎は未来を見据え、レガシーなものにならないと意味がない。コンパクトに作らず、大きいものを作ればよいのではないか。また環境システムのイニシャルコストは莫大なものになるため、効果が見込めるのか。
 - （事務局回答）環境への配慮とコストの関係を整理して検討を重ねたい。
- ・事業方式は決まっているのか。
 - 建物の規模が決まりしだい提案をする。
- ・「検討する」や「整備する」等の表現では実現可能性の強弱がわかりにくい。
 - 前回の委員会で指摘されたことも踏まえ、庁内検討委員会での検討結果も含めて表記を修正した。さらに記号等を使い、より分かりやすい表記を検討する。

6. 今後の予定

次回開催日時の確認がされた。

委員会の開催日は令和元年7月5日（金）午後7時～9時 場所は生涯学習センター203号室

以上